高知新聞
（第３種郵便物認可）
2023年（令和５年）12月12日（火曜日）

「わが友、第五福竜丸」を土佐人に薦める

――記録作家・元共同通信編集委員　上野敏彦

1954年3月、南太平洋で米国の水爆実験に遭い放射能を浴びた静岡県焼津市の遠洋マグロ漁船第五福竜丸。来年はそのビキニ被ばくから70年になるが、高知のマグロ船も周辺海域で同様の被害に遭って現在も国を相手に裁判を起こしていることは周知の通りである。

そんな福竜丸の事件について私が取材を始めたのは91年だった。この年公開された外交文書の英文に日米両政府から弄ばれるマグロ漁船の記述を見つけたからで、そのコピー全文を夢の島にある「都立第五福竜丸展示館」に持っていき、福竜丸の船員、大石又七さんにも読んでもらった。

共同通信高知支局には40年前に3年いて被ばく漁船問題を追う宿毛の元高校教諭、山下正寿さんとも接点があったので、東京・杉並のザ・高円寺でこのほど公開された「わが友、第五福竜丸」という芝居は鑑賞し、いろいろと考えさせられた。

13日夜に高知市で上演される「わが友、第五福竜丸」の一場面＝撮影・姫田蘭

読売文学賞をはじめ多くの大きな賞を取った日本演劇界の旗手、坂手洋二さん率いる「燐光群」が劇団創立40周年を記念して作った作品だ。ネタバレになるので、内容は紹介しないが、坂手さんは「演劇は3周遅れのジャーナリズム。逆に知られてないことが出てくるのが面白い」とその醍醐味を語る。

海の汚染を追跡する海洋調査船と数奇な運命をたどる第五福竜丸を舞台で並走させ緊迫の2時間半が休憩なしで展開していく。日米の暗躍ドラマということで最近話題になった自衛隊の別班を名乗る女性が登場したり、マグロの人形がプカプカ泳いだりして緊張を解きほぐす場面も。

脚本を自ら執筆した坂手さんが一番気に掛けているのは13日に県民文化ホールで上演される「わが友、福竜丸」に対する土佐人の率直な反応だ。かつて四国電力の窪川原発計画を全国初の住民投票条例を制定して廃案に追い込んだ熱い土地柄であることを知っているからである。

坂手さんは山下正寿さん宅を福竜丸展示館の市田真理事務局長と訪れ、被災の事実や幡多ゼミナールの活動について話を聞いたほか、室戸など県内の被災漁船員からも取材してドラマを完成させた。

最後に内緒話を一つ。坂手さんは「わが友、第五福竜丸」が高知県民に面白く見てもらえたら、あの歴史に残る「高知生コン事件」をいつか演劇にしたいと考えているようだ。

坂手洋二さんは岡山の出身。私が高知にいた頃は高知医大と岡山大医学部の間には太いパイプがあったことを思い出す。福竜丸の芝居をきっかけに新たな交流が生まれればうれしく思う次第である。

あす午後７時開演　関連写真展も

燐光群の「わが友、第五福竜丸」は13日午後７時から、高知市本町４丁目の県民文化ホールで上演。3500円（25歳以下は千円、確認できる証明書が必要）。未就学児は入場不可。問い合わせは同ホール（088・824・5321）。同ホールのロビーでは12日午後２～８時、13日午前10時～午後８時にビキニ被ばく関連の写真や、紙芝居の原画展が開かれる。